

【3-39】

湾・灘の区分	周防灘
取組の名称	ブルーーツーリズム関連事業
事業期間及び事業費	事業期間： 2015 年度(平成 27 年度)～2019 年度(平成 31 年度) 事業費： 催しごとの予算であり集計は困難。
事業体制	当会、市民ボランティア、漁業者、大学関係者など
事業の背景・目的	当会のスローガンである「生きもの元気、子どもも元気、漁師さんも元気な中津干潟を 100 年後も…」にのっとり、干潟で獲れる食材を生かした体験行事を継続的に実施している。直接的には魚食推進や干潟の漁業の周知を目的として、地元で獲れる魚介類にこだわってイベントを展開している。同時に究極的な目的として漁業者の経済的自立を促し、結果として干潟環境の保全とワイズユースの考え方を広げることを目指している。
事業場所の詳細	ひがたらぼ(中津市東浜の当会事務所)、ひだまり(中津市小祝の漁師レストラン)、市内各コミュニティーセンターなど。
事業内容	地元漁師が捕獲した魚介類をもとに、漁師の婦人などと協力して、イベント、ワークショップなどを行っている。これまでに行ったものは、シタビラメの干物づくり、ノリすき体験、かざり海苔巻きづくりなど「食」を通じた事業が中心である。また近年は大学研究者と協働で、お魚ホネホネ教室、アカニシ染めワークショップなども実施している。食にこだわりつつも、生物学的な知見の学習や服飾・染色、歴史など文化的な分野とのコラボレーションも行っている。
取組による効果・影響及びその判断基準等	当会の会員を中心に毎回コンスタントに参加者があることから、一定の顧客層が存在する事が分かっている。これまで、地元海産物の存在や味について関心の無かった層の人々にも強い興味を喚起できている。また、科学教育や染色などコアな層にもアプローチ出来る要素を干潟の魚介類が潜在的に持っていることも認知できるようになってきた。
現状での課題	一定量のイベント用の地元魚介類の確保が難しい。魚介類の水揚げは天候に左右されることが多いこと、漁法により漁獲できる期間が決められていることなどから、年間を通してコンスタントに目的の魚介類を確保することが難しい。また、必ずしも水揚げが有るとは限らないので、鮮度の高いものをイベント期日にあわせて用意することも難しい。 遊漁船を使ったイベントは、参加者の安全確保が課題である。過去にイベント終了後にライフジャケットなどを回収した後に海に落ちた子どもが居たことから、イベント前後に至るまで注意を要する。 地方におけるイベント、ワークショップの参加費の設定は、都市部に比べて著しく低いものでなければ多くの人々の参加は望めないことが経験的に分かっている。適正利益確保の為には都市部の理解ある参加者に情報を届ける手法を確立することが課題である。
今後の予定等	継続して事業を続ける。
取組事例についての発表資料等	水辺に遊ぶ会 HP http://mizubeniasobukai.org/
情報提供元	特定非営利活動法人水辺に遊ぶ会